秋田県立大学総合科学研究彙報　第14号（2013）：37－45

本学におけるキャリア教育の方向性の検討(2)

― 学生の仕事理解・社会理解を中心に ―

渡　部　昌　平

Abstract

"Self-understanding" and "Work understanding" are said to be indispensable on career education in Japan. However, there is almost no research on "work understanding" in fact. This research inquires about a student's work understanding exploratively. Students who listened to the lecture of the member of society who works positively, were educated and changed the thought of future, a target, a view and action. Students were also holding uneasiness though they would like to work seriously, and it did not change a lot after the recture. "Attitude" may not change in transfer of knowledge, may change in experience. On the other hand, "Positive Work understanding" changes lot in transfer of knowledge. It was suggested that "Attitude" and "Consciousness" of work understanding may have different phase.

Keywords: work understanding, student, attitude, consciousness, explore

キャリア教育においては、「自己理解」「仕事理解」が必須であると言われている。厚生労働省が整理したキャリア形成の６ステップは⑴自己理解、⑵仕事理解、⑶啓発的体験、⑷意志決定、⑸方策の実行、⑹仕事への適応であり、キャリア・コンサルティングの主要的な著書である木村（2010）でもそれを踏まえて「自己理解」「仕事理解（職業理解）」について第２部第３章と第４章の２つの章を割いて詳細な解説を行っている（同書における「仕事理解」は仕事内容の紹介となっている）。

しかし一方で、学生にどういう「仕事理解」を進めるべきかについては、研究が少ないのが現状である。「自己理解」については文献研究を行った青木（2009）が国内だけで31論文を紹介しているのに対し、「仕事理解」についてはCiNii（NII 論文情報ナビゲータ）、KAKEN（科学研究費補助金採択課題・成果概要データベース）、NII-DBR（学術研究データベース・リポジトリ）のどのデータベースで検索しても出てこない。

実は検索キーワードを「職業理解」とした場合、いくつかの論文が抽出できる（CiNii で12件、KAKEN で２件、NII-DBR で０件）が、これらは中学校の職場体験実践など小学校から高校にかけての「地域の仕事を知る」「職種を知る」実践活動がほとんどであり（阿部と池田、2003など）、「仕事理解に必要なもの・こと」に関する研究は見られない。なお「自己理解」論文の中には、自己理解の中で社会認識に触れているもの（小沢と滝沢、2006；高橋と片岡、2004など）があり、「自己と社会との関係」を考えさせるものもあることはある。

ところで全米キャリア発達指針（The National Career Development Guidelines：1989年制定2004年改訂）を見ると、同指針の中には「仕事内容を教える」「職種を知らせる」という内容はなく、「職業理解」に関連する内容としては、PS1.K4「働くことの価値・必要性の明確化」、PS2.K6「特定の学校、社会、職場環境における適切・不適切な行動の違いの認識」また ED1.K8「情報の入手・使用能力が教

育的達成やパフォーマンスに寄与することへの認識」、CM1.K3「短期・長期のキャリア目標の明確化」など「個人的・社会的発達」（PS）分野・「教育的達成と生涯教育」（ED）分野・「キャリア・マネジメント」（CM）分野のすべてに幅広く含まれている状況にある（用語はすべて著者による仮訳）。

これらを踏まえると、実は「仕事理解」には「具体的な仕事内容（職業）を理解させる」「仕事（職業）との適性を理解させる」という狭義の仕事理解以外に、「自己と社会の関係を考える」、「働くことに関する価値観を明確にする」「キャリア目標に向かって、どんな資源を活用して自分をどう成長させていくか」という広義の仕事理解があることが分かる。

すなわち、日本においては「仕事理解」の概念が職種の理解・職業適性などに狭く偏っていたために具体的な論文が少なく、また検討が進んでいなかった（または検討する必要がないと考えられていた）可能性がある。職業理解や適性理解という「狭義の仕事理解」は情報提供が中心であり、役割・価値観の理解などの「広義の仕事理解」は個人に任される部分が大きかったため、日本では検討が進められて来なかったという点もあるかもしれない。

そこで本研究では、「仕事理解」全般に向けた課題と方法論について、特に「広義の仕事理解」（働くことに関する価値観を持たせ、キャリア目標を設定する）に関して学生の課題を探索的に検討し、今後のキャリア教育の改善を提案することを目的とする。

方　法

調査の方法(1)

学生が積極的に活動する社会人講話を聞くことで 将来や目標、そして考えや行動に変化が起こり得るのか、調査を行なった。それぞれの社会人講師には「仕事には相手があること」「努力して仕事をする必要性や喜び」「自分なりの仕事に対する価値観」等について話してくれるよう依頼したが、学生に対する「働くことに関する価値観の明確化」や「キャリア目標の設定」までを意図した講話を依頼したわけではない。

手続き

学年学科関係なく参加可能な「就業力ワークショップ講座」を2011年12月５日～2012年１月30日まで５回開催した。講師は学外の人材で、NPO 代表、地元小規模企業社長、落語家、地域支援の行政家（公務員）、地元中堅企業社長である。学生の参加はそれぞれ12名、８名、16名、10名、９名であった。

それぞれの回で講座終了後に参加学生に対して質問紙調査を実施した。調査内容は「１　講演を聞いて、将来や目標を考えようと思ったか」「２　講演を聞いて、考えや行動を変えようと思ったか」（４件法）の２問と「３　今回の講座であなたが感動したこと、関心したこと、共感したことは何か」「４　今回の講座であなたが得たものは何か」「５　今後お呼びしたい講師はいるか」（自由記述）の３問の合計５問である。

内容

NPO 代表は本業が別にありながらも環境セミナーや商店街振興を仕掛ける若手であり、社会の問題を他人ごとにせずに自らの行動で変えようとしていること等について語ってもらった。地元小規模企業社長は数人規模ながら公共機関のテーブル・椅子セットなど数百万円規模の仕事を手がける家具製造企業の社長で、現場の苦労（顧客との調整）とともに仕事の誇り等について語ってもらった。

落語家は日本一周をしながら落語をした経験のある中堅で、コンテスト受賞経験もあり、関西出身ながら秋田に居を移して地域に根を下ろした活動をしている人物で、仕事との関連で「外に出ること」「続けること」の大切さ等を語ってもらった。

地域支援の行政家はいわゆる限界集落の支援担当者であり、「地域が「何もない」と思っていても何らかの資源はあること」「盛り上がるためには人の和（輪）が重要であること」等を語ってもらった。

地元中堅企業社長は地元にありながら全国に支店を持ち製品を販売している企業の社長で、

自らの経験を踏まえながら「会社が必要としている人材」「会社経営の苦労や努力」等について語ってもらった。

結果(1)

設問「1　講演を聞いて、将来や目標を考えようと思ったか」「2　講演を聞いて、考えや行動を変えようと思ったか」の結果を表1に示す。

すべての講座で学生の将来・目標設定、考えや行動の変化に大きな影響があったことがわかる。逆に言えばこれまで将来・目標設定、考えや行動に対する意識が曖昧であったことになる。

また設問「3　今回の講座であなたが感動したこと、感心したこと、共感したことは何か」「4　今回の講座であなたが得たものは何か」の回答の一部を表2に示す。（設問3～5の全回答については巻末に参考資料として添付。）

「自分も参加したい」「自分も誇りを持ちたい」など前向きな影響を受けていることが分かる。

表1　*将来や目標、考えや行動の変化*

	ＮＰＯ代表		零細企業		落語家		公務員		中堅企業	
将来や目標										
具体的に考えようと思った	8人	66.7%	4人	50.0%	10人	62.5%	10人	100%	6人	66.7%
ある程度考えようと思った	4人	33.3%	4人	50.0%	6人	37.5%	0人		3人	33.3%
あまり考えようとは思わない	0人	－	0人	－	0人	－	0人	－	0人	－
全く考えようとは思わない	0人	－	0人	－	0人	－	0人	－	0人	－
考えや行動										
変えようと思った	7人	58.3%	4人	50.0%	13人	81.3%	7人	70.0%	6人	66.7%
ある程度変えようと思った	5人	41.7%	3人	37.5%	3人	18.7%	3人	30.0%	3人	33.3%
あまり変えようとは思わない	0人	－	1人	12.5%	0人	－	0人	－	0人	－
全く変えようとは思わない	0人	－	0人	－	0人	－	0人	－	0人	－

表2　*講演の影響（感想の例）*

- 様々な社会活動が行われており、私も参加したくなりました。秋田だけでなく、地域を活性化させようと力をつくされていて、感動しました。
- 社会活動は私にでもできるということがわかった。
- 型にはまらない独創的で楽しそうな活動がたくさんあって、参加してみたいとか参加できるかもと思えるものもありました。身近なところで様々な催しがあるのだと思った。実際に出たいと思った行事もあった。
- もっと自分の視野を広げようと思った。私の身近にも参加できるボランティアなどがいっぱいあることを知った。
- 責任と自信をもって仕事をしておられるのだなと感じました。私も誇りを持って仕事したいと改めて思いました。
- 何事も誠意を持たないと立ち止まってしまう。向上心がなければ成長できない。知識はあればあるだけためになるとはいえないけど、ふとした時にやくに立つこともある。
- どの方面においても努力を継続していくことは重要だと思った。
- １つのことを続けていくとつらいことも大変なこともあるけど、自分が楽しいと思えることをやることはいいことだなと思いました。
- 全国をまわってきたことから分かる秋田の良さが少し意外に思いました。あたり前と思っていても、それは実際はちがうかもと思いました。私は、秋田生まれ秋田育ちなので、もっと秋田のことを知ろうと思います。
- 人間性をみがくことはやっぱり大切なんだと共感しました。
- 行動してみる事、という事に共感した。
- 限界集落という言葉で、集落の可能性を狭めてはいけない。集落と首都圏の企業の結びつきが多数あるということを初めて知った。
- どんな集落に住んでいる人でも、自分の住んでいる地域は誇りであり、十分に活性化する力を持っているということは凄いと思った。
- 限界集落や過疎化などが問題となっているが、頑張っている人がいるということで、すごく力をもらった。そして、生き生きしている人たちの写真を見て、農村に行ってみたいと思った。
- 時間がある今だからこそやれることがあると思った。積極的に行動すべきだと感じた。
- 感性をみがくということが大切であるということに気づいた。
- 企業にとっても人が減ってしまうということは大きな影響を受けてしまうという意味で地域の活性化も重要なことだということがわかった。

調査の方法(2)

続いて、学生の仕事に対する興味や関心、不安について 調査を行った。

手続き

2012年４月に質問紙調査を実施した。調査は教養科目「現代の働く環境」の第１回目の講義時間内に行い、１年生107人２年生６人の計113人から回答を得た。また全く同じ調査を同年７月の「現代の働く環境」最終講義（第15回目）時間内に行い、１年生114人２年生４人の計118人から回答を得た。

質問内容は、

「１　働くことについて今、どう考えているか」(選択肢は「お金があってやらなくてよければ、やらない」「誰かがやらなければ社会が回らないので、お金があってもやる」「お金があろうとなかろうと、前向きに仕事を楽しみたい」の３つ)、

「２　働くことについて、多くの人はどう考えていると思うか」(選択肢は「上司に言われたことを仕方なくやる」「必要なことは言われなくともやるが、それ以上は適当にする」「言われていないことまで顧客をイメージして熱心に取り組む」の３つ)、

「３　働くことについてあなたはどう考えているか」(選択肢は上記設問２と同じ)、

「４　今の労働環境であなたが興味を持っていること・不安に思っていること」(自由回答)、

「５　この講義でどんな知識やノウハウを得たいと思っていたか」(自由回答)

の５つの設問とした。

内容

教養科目「現代の働く環境」の講義内容は、労働法・労働施策、労働市場論、労働環境、労働者の健康とストレスなど労働問題に関わるテーマに触れるとともに、企業講演や職業能力開発の必要性、職業選択の方法、「働くこと」の役割や意味に関するグループワークを盛り込んだものであり、15コマ実施した。

結果(2)

結果は表３のとおりであった。学生たちは講義を受ける当初から、多くの人間が適当に仕事をしていたとしても「自分自身は」ちゃんとした態度で仕事をしようと真面目に考えていた。一方でそれは15回の講義後でも大きな変化ではなかった（有意差なし)。

また設問４から、学生が当初、就職だけでなく就職後のリストラ・パワハラという、やや遠い将来まで不安を感じていたことが分かる。そしてそれは15回の講義の後で消える訳ではないが、かなり前向きになっている。

さらに設問５から、学生が当初「就職先の選び方を知らない」「企業を知らない」「企業が求める人材像を知らない」こと、こうした知識の欠如を「講義で解消してほしい」(≒受身）と考えていたことが分かる。当初は「答を与えて欲しい」と考えていたが、15回の講義を通じ「周りを見る」「挑戦する」などの自発的・積極的な意見が増えるようになってきている。

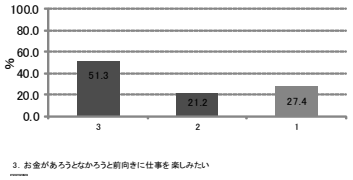
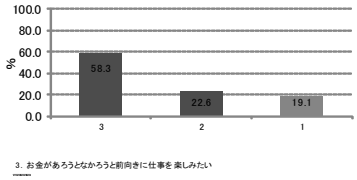
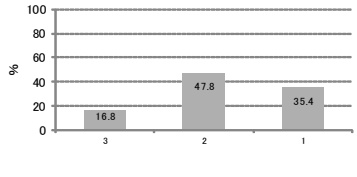
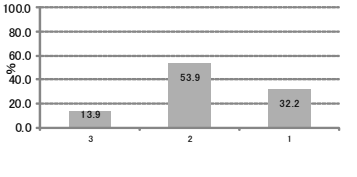
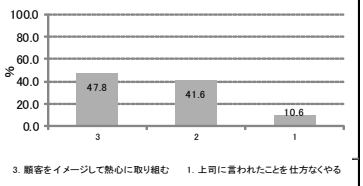
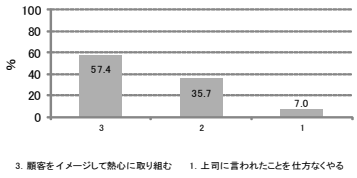
考　察

学生たちは、社会における企業や社会活動の役割や意味を知ったことで、将来や目標、考え方や行動を変えようと考えるようになった。逆に言えば、それまで社会における企業や社会活動の役割や意味を分かっていなかったことになる。また熱心に活動する社会人を見て、「自分も参加したい」「自分も誇りを持ちたい」など前向きな影響を受けていた（巻末の付録：参考資料も参照されたい)。

そして学生たちは、多くの人間が適当に仕事をしていたとしても「自分自身は」ちゃんと真面目な態度で仕事をしようと当初から考えていた。しかしこの「態度」は15回の講義の後で一定の改善はしたものの、大きくは変化しなかった。知識の伝達では「態度」は変わりにくいのかもしれず、「態度」の変容にはインターンシップ等の啓発的体験が必要なのかもしれない。一方で「働くことを前向きにとらえる」ことについては15回の講義の後で大きく変化しており、「働く態度」と「働くことそのものへの意識」には違いがあることが示唆された。

また学生は、就職だけでなく就職後のリストラ・パワハラという、やや遠い将来まで不安を

表３　「現代の働く環境」講義前後の比較

比較項目 / 質問内容	4月（1回目）	7月（15回目）
Q1. 「働く」ことについて 今、どう考えて いるか	 平 均　2.24　（SD　0.98 ）	 ＜　平 均　2.39　（SD　1.11 ）
Q2. 「働く」ことについて **多くの人は** どう考えているか	 平 均　1.81　（SD　0.8 ）	 ＜　平 均　1.82　（SD　0.75 ）
Q3. 「働く」ことについて **あなたは** どう考えているか	 平 均　2.37　（SD　1 ）	 ＜　平 均　2.5　（SD　1.19 ）
Q4. 今の労働環境で あなたが興味を 持っていること 不安に思って いることは どんなことか	・リストラ ・一般企業や公務員などの転勤について ・仕事をうまくこなせるのか？自分の就きたい 仕事に就けなかったときはどうするのか ・セクハラの基準がよくわからない ・高校時の学力、家庭の経済状況を考えて この大学を選びましたが実際はどのくらいの 学歴が重要視されているかが気になる ・職場の雰囲気 ・上下関係 ・会社にはいってから自分は仕事をこなせるのか ・やりたい職につくことはできるのか ・デフレはどのようになれば終わるのか ・就職率の低迷、就職時の会社選び、実際あまり 労働環境について知らない ・各企業による労働環境の差、上下関係や人間関係 がどのようになっているか、家庭と仕事の両立について ・自分が結婚し、子供が出来たときに、産休等の休みが とりやすくなっているか、給料やリストラ ・努力しだいで自分のやりたい仕事をやれるか ・賃金が安くなっていること、景気や不景気のとき労働 環境はどのように変わるのか ・派遣社員はなぜ多くなったか ・過労死、色んなハラスメント ・残業について ・上司との関係が不安 ・今、就職難であること ・研究業で実績が出ないとどうなるのか不安 ・3K:農業関係がその典型な気がする。3Kな仕事は割に 収入も良くない気がする。よいのもあると思うが、農業 つきたいのでそこら辺を知りたいと思う	・働くことで受けるストレスはどんなものか ・男女格差・ひきこもり・不登校→興味 ・今はどんな仕事が人に喜ばれるのか？ 需要があるのか？ ・ちゃんと就職できるかどうか ・メディアに騒がれている事件などに巻き 込まれないか ・就職にどれだけ学歴が影響するのか ・いい企業に入れるかどうか ・自分の興味のある仕事につけるか ・他の人が思いつかないようなアイディアを 実際にやっている企業に興味が出てきた。悩む ようなことはまだあるが、今後に対する不安は 今の所は無くなった ・自分に必要な考えや物のみかたが身に 付けられるか ・「いいこと」をしている企業をもっと知りたいと思った 自分のやりがいが見つけられるかが1番不安です。 ・企業がボランティアをやっていること ・7・5・3現象。すぐに仕事を辞めないでもっと続ける人 が増えれば良いと思った ・ちゃんと就職できるかどうか。 ・就職が難しいこと ・労働と家庭の管理（子供の世話）は両立できるか ・精神面 ・女性に対しての労働環境への改善。就職活動 ・就職できるかどうか ・労働時間の長さ。規則を守られていないのではないか ・育児休暇などの制度はあるのに、実際はあまり機能 していないこと ・少子化なんで残業が多くならないか ・自分は「やれ」と言われた仕事以上のことができるのか
Q5. この講義で、あなた はどんな知識や ノウハウを得たいと 思っていたか ／ どんな知識や ノウハウを得たか	・企業に就職して自分が役立てるにはどうするか ・人の気持ちになれること、人が求めるものを知れること ・物をうまく大量に売るには、どのようなイメージが必要 なのか ・会社の求める人材になるための知識 ・労働に関する知識、企業からの要望にうまく答える ためのノウハウ ・環境に対応してどんな状況下でも判断をするための ノウハウ ・働く上で必要なスキル、人間関係をうまくするには ・採用基準 ・現代環境について、自分には知っていそうで知らない ことがあると思った。会社で仕事をこなすイメージを つけられるようになりたい ・基本的なこと。労働で必要なこと ・上司とのかかわり方 ・自分の学ぶ分野についての就職状況、就職先について ３．４年になる前にある程度しておきたい ・中高で教わった現代社会の労働の内容をもっと深く 掘ったことを学ぶと思った。 ・将来自分が務めるべき企業カラーの識別の仕方を 学びたい ・これから自分が仕事をするに当たってきちんと仕事場 について学びたいと考えている ・上手にコミュニケーションをとる方法。プレゼンテー ションの方法 ・労働法関係の知識を得たい ・職業について知る機会が少ないので、３年４年時に やくだつようにしたい ・現代の仕事の実情。建築のみではなく、様々な観点 から社会のニーズに応じていく力を得たい	・周りを見て気付くということを意識するようになった ・働くことを前向きに考えられるようになった ・グループワークで他学科の人と話ができて良かった 色々な人の考え方を知ることができて良かった ・昔よりはいいけど今もまだ女性の立場が弱い ・世の中にはあまり知られていない。頑張っている企業 があること ・新しいことを考え挑戦することで新たなビジネスが生きれる ということを学んだ ・何事にも積極的に！ ・自分が興味がなければ仕事を続けていくのは大変だと思った ・雑談で話の引き出しが増えました ・今の労働環境の現状について。様々な企業について ・やりがいのある仕事を見つけるのが大切 ・アイディアによっては、ささいなことも大きな事業になる ・周りを見る目 ・相手の気持ちを考えて行動することの大切さを知ることが できた。何をしたら喜ばれるか、もっと便利にするには・・？ ・色々な働くことに関する法律。企業が実際に行っている 売り上げを上げるための工夫 ・職を選ばなければ仕事はたくさんある ・自分が知らない仕事がまだ社会にはたくさんあるということが ある ・労働者はけっこう保護されている ・今の若い人たちの役割みたいのが分かった。さらに「こう なったらいいな」「こうなりたいな」と思える理想の姿を思い 描くことができた。さらに先生の話が非常に興味深く印象的 でした。1セメの講義の中で1番面白かったです。 ・日常生活の中で不満に思うことは、お金を稼ぐチャンスで あると思う ・周りを注意深く見れるようになった

感じていた。それは15回の講義の後で消える訳ではないが、かなり前向きになることが分かった。

合わせて学生は「就職先の選び方を知らない」「企業を知らない」「企業が求める人材像を知らない」ため、「講義で解消してほしい」と受身的に考えていた。しかし講義を踏まえて、学生の中には「周りを見る」「挑戦する」など自発的な態度が見られるようになった。講義の内容・設定の仕方によって、将来に不安がある中でも学生に前向きさを持たせることが可能であることが示唆された。それは「いい仕事を目指してみたい」「普段の行動を変えようと思った」という学生がかなりの数に上ることからも推察される。ただし講義の影響は「考え・気持ち」と「行動」で異なる可能性があることが示唆された。

結　論

学生は社会における企業や社会活動の役割や意味を知らず、就職自体への不安にプラスしてリストラ・パワハラなどの将来不安を抱えている。講義等の知識伝達（企業や社会活動の役割や意味、労働法の体系や国や自治体の労働施策、労働市場情報などの提供）によって一定程度の積極性の付与と将来不安を払拭できる可能性が示唆された。また将来不安を完全になくせなかったとしても、将来や周囲に対する興味や関心を増やすことができる可能性も示唆された。

仕事に対する態度として、学生は真面目である。一方で、将来に対する不安は大きい。従来の「仕事理解」「職業理解」は職種の紹介に留まったものが多かったが、こうした学生の「将来不安」や「回答を求める」傾向を踏まえ、「就職先の選び方」「企業・社会の役割や意味の理解」「企業が求める人材像の理解」等を提供し、そして「自ら主体的に選択する機会」を提供する必要があるのではないだろうか。

本研究では学生の「仕事理解」に関する意識の実態を把握し、どういう「仕事理解」が必要かを議論した。今後の「仕事理解」教育では、学生の実態を踏まえ、職種の紹介だけでなく「仕事の社会的役割・意味」「不安解消」「仕事や行動を選択する機会の提供」まで行う内容を検討すべきではないのだろうか。

参考文献

青木万里（2009).「自己理解に関する文献研究」『埼玉純真短期大学研究論文集』第 2 号，1-15.

阿部二郎，池田靖秋（2003).「生涯学習活動の基盤に関する研究（6）中学校での職業理解について（3)」『北海道教育大学生涯学習教育研究センター紀要』第 3 号，9-18.

小沢一仁，滝沢利直（2006).「大学生の自己理解と社会認識の関係についての研究（3)」『東京工芸大学工学部紀要』29（2）1-15.

木村周（2010).『キャリア・コンサルティング理論と実際』. 東京：(社）雇用問題研究会.

京都大学高等教育開発推進センター，電通育英会(2011).『「大学生のキャリア意識調査2010」結果報告書』. 東京：電通育英会.

高橋桂子，片岡郁子（2004).「生活設計の視点を取り入れたキャリア教育の提案」『新潟大学教育人間科学部紀要』 7（2）197-207.

日本キャリア教育学会（編）(2008).『キャリア教育概説』. 東京：東洋館出版社.

付　　録
就業力ワークショップ講座自由回答の結果（全体）

「3　今回の講座であなたが感動したこと、関心したこと、共感したことは何か」

NPO 代表の回

- 様々な社会活動が行われており、私も参加したくなりました。秋田だけでなく、地域を活性化させようと力をつくされていて、感動しました。
- イギリスでの話が一番印象に残りました。街の中によく分からない名前の店が並んでいて、それがチャリティーショップというリサイクルショップのようなものだというのが面白かったです。そういうのに関心が薄い人でも気軽に参加できる感じが日本にはなくていいと思いました。
- イギリスでは、社会活動に気軽に参加できる環境が整っており、若者からお年寄りまで楽しんで活動していることに感動した。
- 当該 NPO のことは少し知っていたが、こんなにも多くのことをやっていることに驚いた。秋田市でこんな楽しいイベントが行われていることを初めて知った。
- 物事を前向きに考えていて、参加者に楽しんでもらおうと考えていてすごいなと思った。
- 社会活動は私にでもできるということがわかった。
- 型にはまらない独創的で楽しそうな活動がたくさんあって、参加してみたいとか参加できるかもと思えるものもありました。こういった活動を考えるとき、「誰でも気軽に参加できる」というのは大切だと思いました。
- 身近なところで様々な催しがあるのだと思った。実際に出たいと思った行事もあった。
- いろんな活動があるんだなと思い、感心しました。
- 活動が成り立っていて驚いた。ボランティアに参加してみたくなった。気軽に参加できることは必要だと思った。
- もっと自分の視野を広げようと思った。私の身近にも参加できるボランティアなどがいっぱいあることを知った。
- イギリスではハードルが低く、社会に関わりやすいが、日本はハードルが高い。そのためのハードルを低くする活動なのが感心した。

地元小規模企業社長の回

- 責任と自信をもって仕事をしておられるのだなと感じました。私も誇りを持って仕事したいと改めて思いました。
- 他の人と比べない、企業はちゃんと選ぶ、目標を持つ
- 確かに、自分は中小企業につとめる確率が高いので（多分）、良い会社の見分け方を知っておくべきだと考えた。
- 全方位の知識吸収に努めるというのには、とても共感できました。また、「ローマは一日にして成らず」という言葉、ローマ（目標）を成すには継続的な努力をしていかないといけないなと思いました。
- 何事も誠意を持たないと立ち止まってしまう。向上心がなければ成長できない。知識はあればあるだけためになるとはいえないけど、ふとした時にやくに立つこともある。
- 継続すること。挑戦し、発展させることが大切である、ということ。
- どの方面においても努力を継続していくことは重要だと思った。
- 中小企業の魅力が伝わってきた

落語家の回

- ①やめないこと、②時代を読む、③無技巧の差（＝人間性の差）
- 外に出ることはいろんな人との出会い、出会い＝自分磨き
- 話し方など、生き方
- 関西人と関東人の人間性の違い
- 前向きに、ってこと
- 色んな人に出会うということ、挑むということ
- 最後の 3 つの言葉（※やめないこと、時代を読む、無技巧の差）
- 人との出会いを大切にすること
- １つのことを続けていくとつらいことも大変なこともあるけど、自分が楽しいと思えることをやることはいいことだなと思いました。
- 全国をまわってきたことから分かる秋田の良さが少し意外に思いました。あたり前と思っていても、それは実際はちがうかもと思いました。私は、秋田生まれ秋田育ちなので、もっと秋田のことを知ろうと思います。
- 流石、プロの芸人さんだと思いました。洗練された笑いが盛り込まれていてとても楽しかったです。私も損得より自分の興味を優先するタイプなので講師の気持ちにとても共感できました。学生という自由な時間のあるうちにやりたいことをとことんやりたいと思います。
- 人間性をみがくことはやっぱり大切なんだと共感しました。

地域支援の行政家（公務員）の回

・「限界集落」は年齢構成では決まらないというところ。
・行動してみる事、という事に共感した。
・限界集落という言葉で、集落の可能性を狭めてはいけない。集落と首都圏の企業の結びつきが多数あるということを初めて知った。
・公務員の方がこんなに熱意を持って行っていることにおどろいた。秋田県のみにこの課があることに感動した。
・どんな集落に住んでいる人でも、自分の住んでいる地域は誇りであり、十分に活性化する力を持っているということは凄いと思った。
・秋田県では、限界集落と呼ばれている65歳高齢者人口比5割の集落を小規模高齢化集落と言っているということを学んだ。
・限界集落や過疎化などが問題となっているが、頑張っている人がいるということで、すごく力をもらった。そして、生き生きしている人たちの写真を見て、農村に行ってみたいと思った。
・時間がある今だからこそやれることがあると思った。積極的に行動すべきだと感じた。
・アンチ公務員で育てられたので、勝手な思い込みをしていた。熱い思いを感じることができた。

地元中堅企業社長の回

・会社を選ぶポイントなどを知れた。入口にまどわされない。思っているだけでは始まらない。
・中小企業も人口減少によりグローバル化を目指さなければ続いていかないこと。社長の考え、価値観が合えば、１つ成功であること。
・「入口はどーでもいい！」という話。最終的には何がしたいか。
・感性をみがけ。
・イノベーションを常に行うということ。
・感性をみがくということが大切であるということに気づいた。
・企業にとっても人が減ってしまうということは大きな影響を受けてしまうという意味で地域の活性化も重要なことだということがわかった。
・感性をみがくことの重要性。
・　メーリングリストからの引用で、本を付き3冊読む人は勤労者の0.5%しかいない事を知った。今までも本を読んでいましたが、これからは今まで以上に本を読んで視野を広げていきたいと思います。

「４　今回の講座であなたが得たものは何か」

NPO 代表の回

・ＮＰＯがどのような活動を具体的に行っているのか知れました。社会活動が誰かのためになっていることを知りました。
・地域の中でのつながりや人との関わりの中で、 社会に与えていく影響は少しずつでも大きいんだなあと感じた。
・日本だけではなく、海外で行われている社会活動への興味。
・秋田の学生として現在被災地ボランティアの企画をしているが、自分の住んでいる秋田を知るボランティアに参加したいと思った。
・イベントを開催することで、欠点もみられてくるが、利点を重視し、物事を前向きに考えることは大切だなと思った。
・色々な体験をしてみたいというやる気
・違う見方、考え方ができるというのは大切だということ。様々な人とのコミュニケーションからは得るものがあるということがわかった。
・考え方を変えると色々なものが見えてくるのだと感じた。
・やればできる。
・活動があるという事実。
・いろんなボランティアやイベントに参加したいと思う。自分の意見をしっかり持ち、相手に伝えるということが大切だと感じた。
・積極性、興味。

地元小規模企業社長の回

・仕事に対する強い（あつい）気持ち、良い企業の選び方について
・企業を見る（インターネット、上の人の姿勢など）
・企業の必要とする人材についての具体的なこと。誇りをもっていてすごいと思った。
・英会話のＴＶ番組を見ようという気が起きたこと。
・知識に対するとらえ方。独自性の必要性。アグレッシブさ。仕事は満足度も大切。
・良い仕事をするには、商品の対価としてお金を払ってくれる客への対応、従業員との信頼、努力、知識や技能・・・等様々な要因が関わっていて、向上心を持つことが重要であると思った。

・他人と比べて優劣を感じたりしていたが、比較をやめれば考え方を変えることができると思った。
・今からのやる気

落語家の回

・　「前向き」にやっていくことの大切さや人間性が大事だということがわかった。
・　人間性を磨こうと思った。落語に興味を持った。
・　想像力→何やるのも想像して、行動→様々な人との交流　充実した仕事→楽しい
・　３つの教え（※やめないこと、時代を読む、無技巧の差）
・　人間性を磨かなければならないこと
・　行動することの大事さ
・　落語は深い、人との出会いを大切にすること
・　今やっていることがこの先につながっていくので、今の時間と出会いを大切にしたいと思いました。
・　人との関わりの大切さが分かりました。あと人間性とか難しいけど、いい人になりたいと思いました。
・　なんだかよくわからないけど勇気づけられました。
・　いろんな人と出会うことの大切さを学びました。
・　無技巧の部分をみがく、人間性をみがくということを聞いてやってみようと思った。

地域支援の行政家（公務員）の回

・「自分の思考」を大事にしようと思いました。
・やる気
・行動することで、新たな見方、課題が生まれる。そこから自分ができることを考え、実践することが大事である。
・公務員でももしかしたらやりたいことができるのではないか、と考えた。前向きに公務員試験について考えたい。
・実際に見たこと・聞いたことはイメージとは違う。だから、現場に行って話を聞くことが大切だと知った。
・進んで自分から行動することによって、得られるものがたくさんあり、それが自分の生きる糧になっていくということ。
・都会と農村で価値にすごい差があるものがあるということ。そういった宝が集落の活性化になるということ。
・現場主義ということは、卒業研究や就職後だけでなく、今から使えそうだと思った。何か自分も action を起こしたい！
・自分がやっていることはよかったのだと気づけた。

地元中堅企業社長の回

・始めなければ始まらない。具体的な会社選びの知識。
・中小企業の考え。
・"感性"を豊かにする大切さ。ウソも大事。
・色々な考え方。
・現実の厳しさ。
・企業を経営していく上で、イノベーションが必要になること。
・価値観はいろいろあるということ。
・①中小企業白書がある事、②職種を調べてみようと思った事、③本をもっと読んでみようと思った事。

「５　今後お呼びしたい講師はいるか」

・水谷修さん、石田ゆうすけさん
・講義で終わることなく、継続的に勉強させていただける方
・食品関係の仕事について聞きたいです。
・漫才師
・企業の人事担当の方→どんな人が求められるか知りたい。
・スパルタ講師
・酪農家